

「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【根木名小学校】

令和3年5月27日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている内容に基づく。 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	C
算数	学習指導要領第2章第3節算数における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

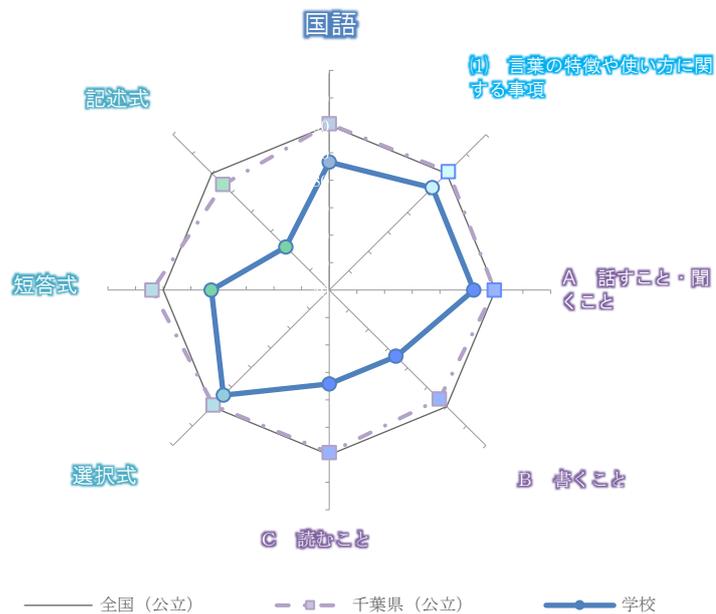
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



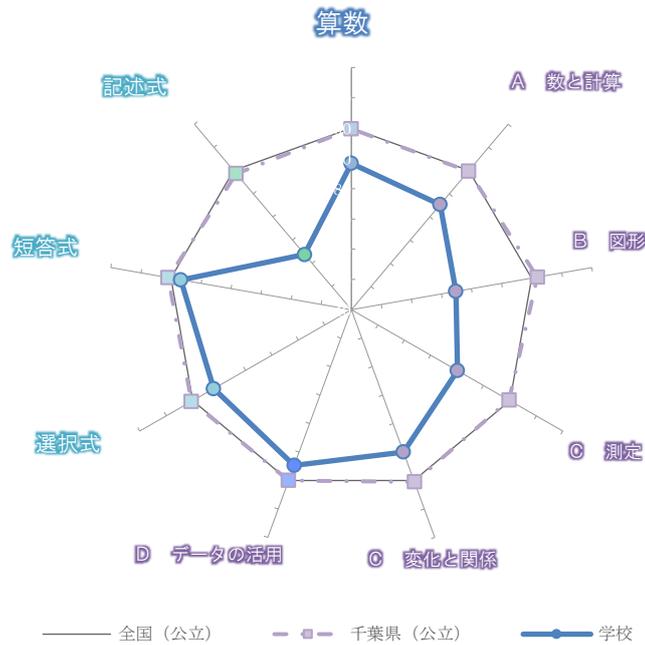
【特徴と現状】

- 全体的に、全国と比較して正答率が下回っています。
- 「書くこと」「読むこと」の領域において、正答率が大きく下がっています。
- 「記述式」の問題形式において、正答率が大きく下がっています。
- 目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけることに課題があります。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することに課題があります。
- 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。

【改善方策等】

- ヒントになったことが分かるように書いていますが、仕組みが分かるように書いていないので、必要な情報を抜き出すだけでなく、資料と比べるなどして考えをまとめる力の向上を目指します。
- 国際宇宙ステーションの中での使われ方について書いていますが、そのよさを取り上げて書いていないので、文の中心となる言葉を見つけ、文字数を気にしながら要約する力の向上を目指します。
- 詳しく書き直すために、反対する理由を明確にして書こうとしていることを捉えることができていません。目的と違う考えに反対する意見を書いていたたり、目的の言葉や文を取り上げて書いていますが、反対する理由を書いていなかったりしたので、「意見」と「理由」を明確にし、考えが伝わるような書き方を工夫する技能の向上を目指します。

算 数



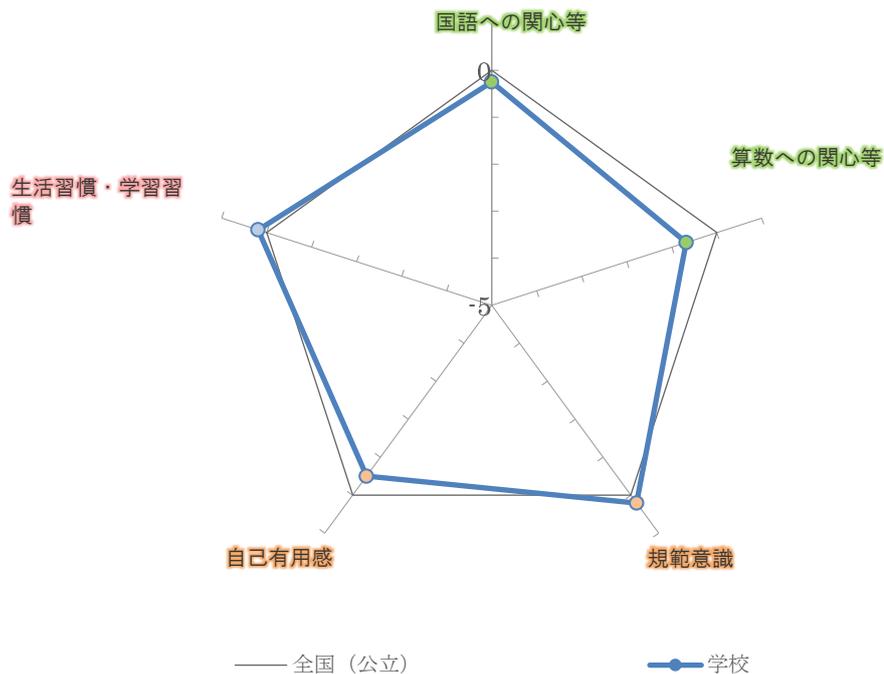
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「測定」の領域において、正答率が大きく下回っています。
- 「記述式」の問題形式において、正答率が大きく下回っています。
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することに課題があります。
- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題があります。
- 小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述することに課題があります。

【改善方策等】

- 平行四辺形A B C Dの面積を求める式や言葉は記述できていますが、平行四辺形A B C Dの高さを求める式や言葉が記述できていないので、図形の構成する要素について理解する時間を増やしてまいります。
- 5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合の違いが、一番大きい項目以外の項目を記述しているので、データの比較とその特徴を読み取り理解する時間を増やしてまいります。
- 無回答率が高く、割合について理解していないことや分からないと思った問題に挑戦することを諦める傾向にあることがわかりました。示されている数字から答えを導こうとする能力の向上を目指します。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 教科への関心については、「国語科」「算数科」ともに全国平均を下回っています。学習内容は分かっていると答えていますが、理解して身に付けることに課題があります。
- 「規範意識」については、全国平均とほぼ同じくらいです。普段の学校生活の様子に反映されていないことも見受けられますので行動の伴った生活をしていくようにする必要があります。
- 「自己有用感」については、全国平均を下回っています。難しいことでも失敗を恐れない態度を育てていく必要があります。
- 「生活習慣・学習習慣」については、全国平均とほぼ同じになっています。携帯電話やゲームの約束などを家庭で決め、正しく使えるよう家庭や学校で指導していく必要があります。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「書くこと」「測定」の領域の向上に努めてまいります。

正答率が高い児童は、以下の質問において肯定的な回答が見られました。

- ・「自分にはよいところがある」 ・「自分で決めたことはやり遂げる」
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」 ・「家で家族と話をしている」
- ・「勉強は大切だと思う」 ・「最後まで回答する努力をした」

家庭や学校での生活・学習習慣と学力に関連があると考えられます。家庭での会話や自己有用感を高め規則正しい生活習慣を身に付けるなど、引き続きご家庭でのご支援をお願いいたします。